

研究論文

瀬戸窯業試験場所蔵デザイン研究試作品(平成期以降)について

長谷川恵子*1

The Design Research Prototypes after the Heisei Period Accumulated at Seto Ceramics Research Institute

Keiko HASEGAWA*1

Seto Ceramic Research Institute*1

瀬戸窯業試験場が開所以来実施してきたデザイン研究等の試作品を産地陶磁器業界が利活用しやすい形に整備してデザイン資料として広く公開・運用するために、所蔵する試作品等の実物と研究報告書等を照合し、作品情報をデータ化して台帳に取りまとめた。昭和期に引き続き、平成元年度から令和2年度までの32年分の試作品60テーマ1,022点の詳細情報を台帳に整理するとともに、その情報から平成期以降のデザイン試作品の傾向と特徴を整理、分析し、試作テーマや内容の推移を考察した。また、試作品の広報、普及のために閲覧・配布用のマテリアルを企画、製作した。

1. はじめに

瀬戸窯業試験場は、昭和46年に愛知県瀬戸窯業技術センターとして開設して以来、瀬戸地域を中心とするいわゆる「せともの」産地の地場陶磁器業界に向け、時代に即した研究開発、技術・製品開発支援を行ってきた。その一環として陶磁器デザイン・製品開発に関する研究を多数実施し、これまでに1,500点以上の試作を行ってきた。

これらの試作品は研究報告書により背景、コンセプト、製法、素材等の詳細が明らかであり、資料的な価値が高い。また様々に応用可能なアイデア、工夫が豊富であることから、産地の製品デザインや商品開発への活用が期待されている。

そこで、瀬戸窯業試験場では開所50年の節目を契機に、所蔵する試作品の有効活用に向けて、作品とその情報を利活用しやすい形に整理分類、加工するとともに、実物と画像、詳細情報、研究報告を一括管理して利用に供するデジタルアーカイブの構築に取り組んでいる。

前報¹⁾では昭和期18年間に実施した試作研究32テーマ分548点について詳細情報を台帳に整理し、試作状況からテーマ、内容の推移や特徴を把握した。

本研究では引き続き、平成元年度から令和2年度までの32年分の試作品について作品情報をデータ化して台帳に整理し、試作状況、研究のテーマや内容の特徴と推移を把握するとともに、有効活用を促進するため、展示会での受賞作品を調査し、それらを中心に作品普及・PR用のマテリアルを企画、作成した。

2. 研究方法

2.1 試作品台帳

研究報告書のバックナンバーから試作を伴う研究テーマと試作品を抽出し、作品実物と照合して作品の詳細情報を台帳に入力、整理した。整理項目は、製作年度、研究テーマ、担当者、製品名、アイテム、試作情報(素地、釉薬、製造方法、加飾、焼成条件)、保管場所、研究報告書掲載箇所その他、協力企業・団体、企業等による製品化実績、展示会出品・受賞歴等の関連情報も加えた。不足の情報は、研究報告のほか、事業報告書や研究関連文書、出品展示会の目録等を参照して補足した。

作品数が膨大であるため、台帳記載の際は、製品名、セット、種別ごとにまとめて1件として取り扱った。

2.2 試作状況の分析

台帳に整理した情報から、平成期の試作の種類、年度ごと作品を抽出し、デザイン関連試作研究の実施状況、試作の種別割合や試作数の推移を把握した。また、研究テーマから共通する要素やキーワードを抽出して年代ごとに配列し、試作テーマ、課題の推移と、試作の特徴と傾向を分析した。

2.3 展示会受賞作品の調査

全国の陶磁器試験研究機関の試作等成果品を集めて一般に公開、展示する「陶磁器試験研究機関作品展」(現「陶&くらしのデザイン展」、以下「試験研究機関作品展」とする)では、平成元年に表彰制度「選奨」が創設され、当初は外部専門家、次いで陶磁器関連公設試験研究機関のデザイン担当者の投票により、優れた作

*1 産業技術センター 瀬戸窯業試験場 製品試験室

品を選定し、表彰している。

瀬戸窯業試験場は愛知県瀬戸窯業技術センター当時から本展示会に継続して出品し、複数回選奨を受賞している。そこで、ここでの表彰を外部評価の一つの指標とし、受賞作品を代表的作品の一部として紹介、発信することとして、出品関連文書、展示会記録、表彰状から受賞歴と表彰種別、受賞作品の内容を確認した。

2.4 試作品普及・紹介用マテリアル

試作品を積極的に運用し、利活用促進を図るため、作品を紹介し、普及するためのマテリアルを検討した。

WEB サイト、モニター上での閲覧や作品資料として出力して利用するものと、印刷配布用の簡易的なものの2種類を検討、考案した。

3. 結果及び考察

3.1 台帳作成

昭和期に引き続き、平成元年以降の試作品情報を製作年代順に台帳に入力した。台帳の試作品情報の入力状況の一部を図1に示す。

平成期以降令和2年度までに実施した試作研究は55テーマあり、それらの試作総数は964点であった。これに産地業界を対象として行ったデザイン開発事業やデザイン支援の成果品(以下「指導製品」)の内、資料や文書等により実施年度や事業内容が明らかな5テーマの成果

年度 元号	西暦	テーマ	品名	アイテム	数量	ジャンル	材質	試作データ
H.5	1993	ファミリーレストラン用食器を中心とするデザイン開発	バレット形皿	皿	2	食器 ノベルティ 食器 ファミレス	白磁 透明釉	圧力焼込 1300℃ RF
H.5	1993	ファミリーレストラン用食器を中心とするデザイン開発	カップ&ソーサー エスカ ルゴ	カップ ソー サー	2	食器 喫茶 飲食 器 ファミレス	せっき 釉掛け 分け(御深井)	排泥焼込 圧力焼込 1220℃ RF
H.5	1993	ファミリーレストラン用食器を中心とするデザイン開発	エスカルゴ形 皿	皿	2	食器 外食産業用 ファミレス	せっき 釉掛け 分け(御深井)	圧力焼込 1220℃ RF
H.5	1993	先端機器利用による陶磁器製インテリア用品並びに生活用食器のデザイン	シェービング セット	シェービング カップ トレー ブラシ 剃刀	4	その他 アメニティ 剃剃り メンズグ ルーミング シェー ビング	白磁 透明釉 ブラシ部: 獣毛 剃刀部: 金属・ 直線	排泥焼込 圧力焼込 1280℃ RF 金彩
H.5	1993	先端機器利用による陶磁器製インテリア用品並びに生活用食器のデザイン	家具用取手	取手 (引手)	5	その他 部品 パーツ インテリア 装飾	白磁 透明釉 木材(本体) リ ング: 真鍮、セル ロイド	排泥焼込 圧力焼込 1280℃ RF 上絵
H.5	1993	国内ノベルティデザインの研究	急須 大	置物	6	ノベルティ イン テリア 置物 装飾 品 透かし	白磁 透明釉 木材(台座)	排泥焼込 素焼き 50℃ サンドブラスト 1270℃ RF

図1 試作品情報入力状況

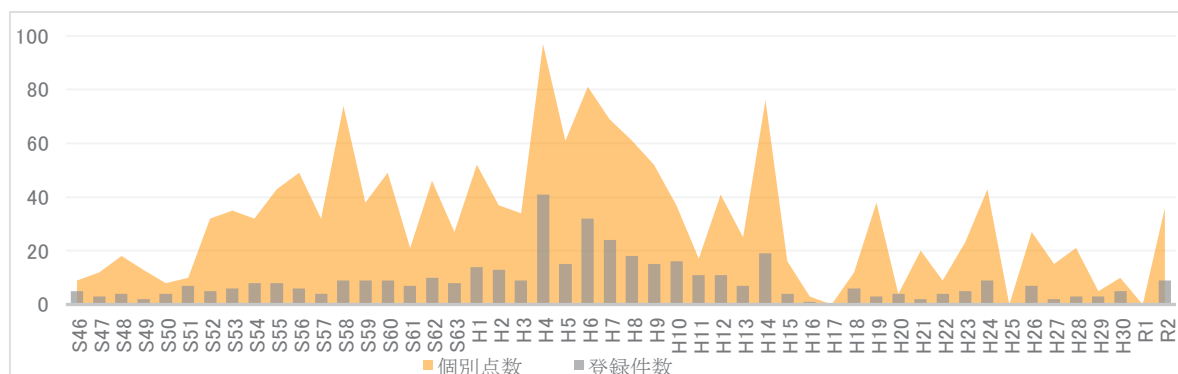


図2 試作数の推移

品58点を台帳に加えた60テーマ分1,022点の研究試作品・指導製品について、テーマ内の品名やシリーズ、製品種別に可能な限りとりまとめて312件として台帳に登録した。

その結果、開所以来令和2年度までの全登録件数は92テーマ426件、試作品個別の総数にして1,570点となった。

3.2 平成期以降の試作状況の分析

3.2.1 デザイン研究と試作開発の実施状況

まず開所以来のデザイン関連研究を見ると、全部で110件あり、研究全数341件の32%を占める。それらデザイン関連研究の内、試作を伴う研究は79件で、デザイン関連研究の72%であった。次に平成期の実施状況を見ると、研究全数189件に対し、デザイン関連研究は72件と研究全体の38%を占めた。その内試作を伴うものは55件あり、デザイン関連研究の76%が製品試作を伴う内容であったことから、平成期以降の研究においてデザイン関連の研究、特に製品の試作のウェイトが高くなったことがわかる。

3.2.2 試作数の推移と特徴

年度ごとの個別試作数と台帳登録件数から試作の量的推移を把握した。その結果を図2に示す。試作数のピークは平成4年度であり、平成10年度頃までの間が量的に最も充実している。その後、平成15年度前後を境に試作数は大きく減少した。

3.2.3 種別構成比とその推移

次に、年度毎の試作における飲食器・食卓厨房用品(以下食器等)と、食器以外の置物・装飾品、インテリア他(以下ノベルティ他)の構成比の推移を見ると(図3)、昭和期は食器等の試作割合が比較的高い。これは輸出や食卓様式の変化を背景に、セット構成の洋飲食器や和食器の揃いものが多数試作提案されたことによる。

一方、平成期は、初期は耐熱調理具、耐熱食器、次いで外食産業や高齢化社会のニーズに対応して多数の飲食

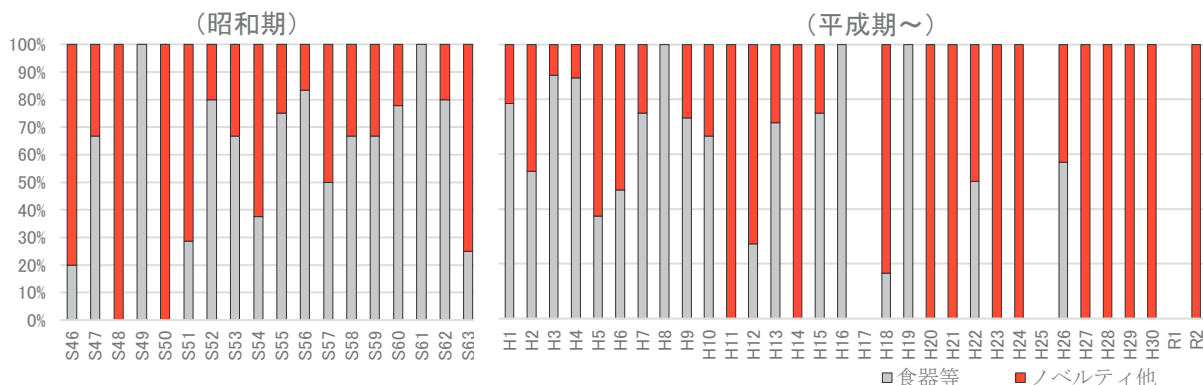


図3 構成比の推移

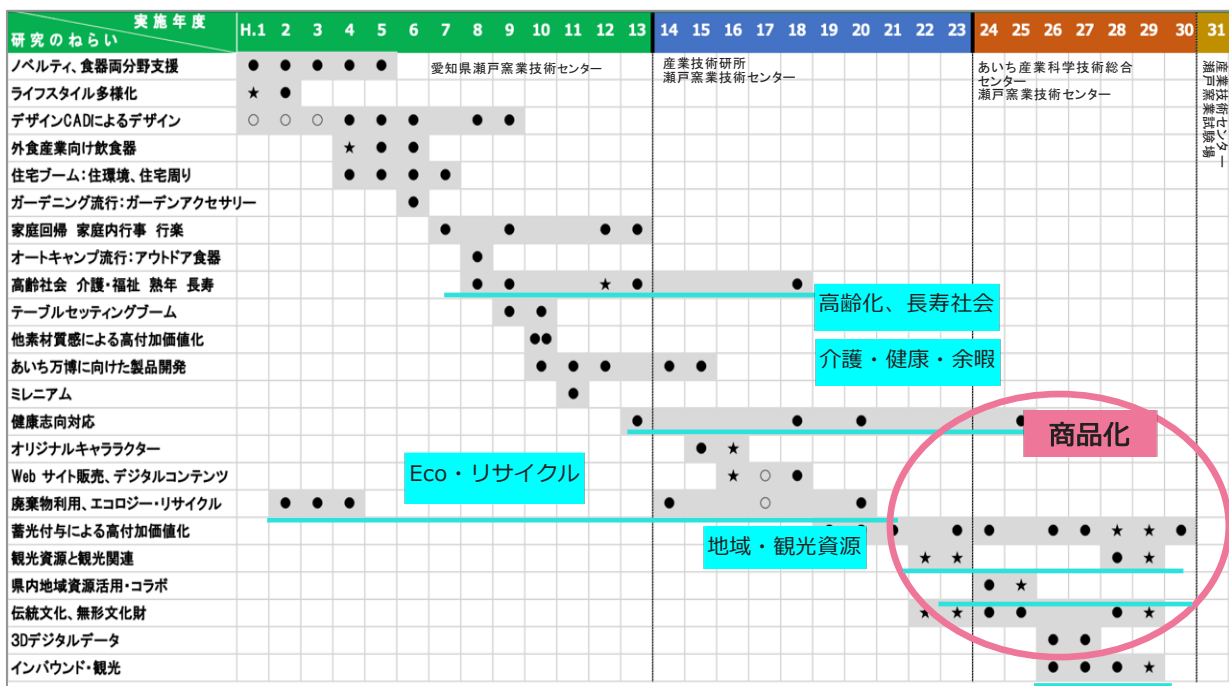


図4 試作テーマ・内容の推移

●：試作 ○：試作なし ★印：商品化

器開発を実施しており、中盤までは食器等の割合が高い。一方後半になると試作品種類が多様化していき、食器分野の試作割合は減少し、それ以外の製品の割合が増加した。

3.2.4 試作の傾向と特徴

平成期の試作の特徴を把握するために、年度ごとにデザイン関連研究のテーマや内容から特徴的なキーワードや着眼点等を抽出した。また、外部との連携の有無や商品化の状況を調べた。試作テーマ・内容の推移を図4に示す。

平成期の試作の特徴としては、内容の豊富さ、製品の多様性、量から質への転換が挙げられる。また、製品開発ニーズが高いテーマが複数見られた。

平成前期は、陶磁器デザインに3DCADを導入して、バブル期以降に興った住宅ブーム、外食ブーム、アウ

トドアブームなどの様々なニーズに向けて豊富な試作が行われた。中期以降の特徴的な研究課題としては21世紀到来に向けた慶祝グッズ、日本国際博覧会「愛・地球博」に向けた関連製品開発などの時々の大きなイベントへの対応、高齢・長寿社会に向けた製品開発、リサイクル素材、デジタル時代に向けた商品開発などの取り組みが見られる。その中で製品分野が拡大し、従来の陶磁器製品の範疇を超えて陶磁器の可能性を広げるユニークな製品が製作された。一例を次に示す。

漆とファインセラミックスによる陶胎漆器(H.10)、タイムカプセル(H.11)、グランドゴルフクラブ(H.13)、陶製碾き臼(H.18)、フットヒーター(H.20)

平成20年代以降は、試作数は減少するが、企業や外部専門家と連携して試作開発を行うことにより、商品化を多数実現している。その例としては、蓄光セラミック

ス(H.26~30)、県産茶とのコラボレーションによる商品(H.26)などがある。

研究課題の内、長期間継続したものを、図4中に横ラインで示した。具体的には「長寿高齢化社会、健康、余暇」、「廃棄物利用、エコ、リサイクル、サステナブル」、「地域資源、観光資源」があった。

3.3 展示会受賞作品

試験研究機関作品展受賞作品を調査した結果、平成元年度の奨励賞受賞以来、令和元年度までに計11回、延べ15件の作品群が受賞していることがわかった。受賞歴と表彰種別、対象作品の内容等を表に示す。受賞した賞の内訳と回数は金賞(奨励賞含む)5回、銀賞3回、銅賞2回、審査員特別賞1回(他4機関と合同受賞)である。

これらの受賞作品はデザイン、企画・コンセプト、製品開発の取り組みなどが外部の陶磁器デザイン関係者からも高く評価されており、優れた内容の製品であるといえる。

表 受賞作品

出品展示会	表彰	受賞作品(内容)	制作年度	研究・事業テーマ
第26回陶磁器試験研究機関作品展	奨励賞	繊維の素材感を持つ陶磁器照明	昭和63	他材質との組み合わせによるデザイン
第27回陶磁器試験研究機関作品展	日本セラミックス協会賞	象形水差し(蓋物)	平成1	さまざまな生活場面のためのテーブルウェアのデザイン
陶&くらしのデザイン展'93	日本陶磁器意匠センター賞	ディスプレイ(ポンプ付液体容器)	4	先端機器利用による陶磁器製インテリア製品生活用品並びに生活用食器のデザイン研究
陶&くらしのデザイン展'99	日本セラミックス協会賞	「和洋彩々」人宴シリーズ	10	カップ&ソーサーのデータベースの構築と応用
陶&くらしのデザイン展2009	選奨 銀賞	和の確き臼	18	ウェブサイト販売用熟年市場向け製品開発
陶&くらしのデザイン展2009	特別賞	MAG-CUP少年サッカー交流大会 優勝トロフィー	20	5機関連携MAG-CUP少年サッカー交流大会 優勝トロフィー
陶&くらしのデザイン展2012	選奨 銀賞	瀬戸焼そばの皿、豆皿等	22	製品開発支援 道の駅 瀬戸しなの向け商品開発
		瀬戸焼創作図案集	23	緊急雇用創出事業対策事業 瀬戸焼創作図案集
		奥三河花祭のための湯呑等	23	奥三河民俗観光製品の開発
陶&くらしのデザイン展2015	選奨 銀賞	瀬戸焼と県産茶のコラボレーションによる製品開発	26	愛知県産お茶と陶磁器のコラボレーションによる製品開発
陶&くらしのデザイン展2016	選奨 銅賞	夜光宝石(蓄光セラミックス 宝石)	26	蓄光粘土とガラス或いは金属との融合化研究
		蓄光レース人形	27	蓄光レース人形の開発
		リトフェインの磁器製照明器具(デジタルデータ活用)	27	リトフェインの磁器製照明器具(デジタルデータ活用)
陶&くらしのデザイン展2017	選奨 銅賞	白雲製品への蓄光加飾	27	白雲陶器の蓄光加飾研究
陶&くらしのデザイン展2019	選奨 金賞	「犬山まつり猪口カップ」	29	犬山祭観光関連陶磁器製品の開発

■ 金賞(相当) ■ 銀賞 ■ 銅賞 ■ 特別賞

3.4 試作品普及・紹介用マテリアル

WEB サイトやモニター上での閲覧や、出力して作品資料として利用することを想定したシート体裁の「閲覧シート」と、掲載情報をタイトル、名称、製作年度、作品説明等に絞り込んだ配布用の「作品カード」の2種類を企画し、展示会受賞作品をはじめ、主要な試作品を中心に作成した。作品カードのレイアウトと作品カードの一例を図5、図6に示す。

4. 結び

本研究では、瀬戸窯業試験場が所蔵するデザイン研究試作品等の有効活用に向け、昭和期に続き、平成元年度から令和2年度までの試作品・指導製品60テーマ1,022点の試作情報を312件にまとめて台帳に登録し、開所以来のはほぼ全試作品1,570点の試作情報426件の登録を終えた。台帳に整理した情報から平成期以降の試作状況をみると、平成期以降の試作は内容の豊富さ、製品の多様性に特徴があり、陶磁器製品の可能性を広げる新たな発想、企画によるユニークな製品が多数確認できた。製品開発テーマとしても、今日まで継続するテーマが複数見られた。

また、陶磁器試験研究機関作品展の選奨受賞作品を調査した結果、表彰は11回に渡り、延べ15件の作品群が外部からも高く評価されたことがわかった。そこで、今後、所蔵試作品の利活用を促進するために、優れた作品を積極的に紹介する広報用マテリアルとして「閲覧シート」と「作品カード」を企画し、これら受賞作品をはじめとした主要作品について作成した。

文献

- 1) 長谷川恵子: あいち産業科学技術総合センター研究報告, 11, 108-109(2022)



図5 作品カードレイアウト



図6 作品カード